

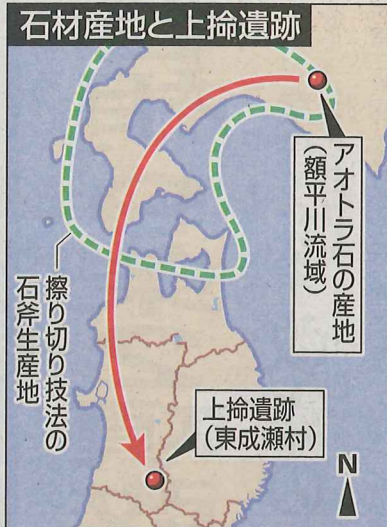
上捨遺跡(東成瀬村)出土4点

石斧素材は北海道産

東成瀬村の上捨(うわはば)遺跡(縄文時代)で出土した国内最大級の磨製石斧(ませいせきふ)4点(国重要文化財)が、北海道日高地方の平取(びらとり)町で産出される緑色岩の一種「アオトラ石」で作られたことが、明治大黒耀石研究センターの中村由克(よしかつ)客員教授(62)

＝考古学＝の石材鑑定で分かった。これまでは地元で採れる石材で作られたと考えられてきたが、鑑定により津軽海峡を渡って持ち込まれたとみられることが判明。県内で見つかった他の石斧にもアオトラ石が混在しているとみられ、当時の交易活動を知る手掛かりとなりそうだ。

大客員教授「アオトラ石」と鑑定



上捨遺跡の磨製石斧について解説する吉川学芸主事(県立博物館)

縄文期交易の手掛かりに

中村客員教授は旧石器・縄文時代の石器石材研究の第一人者。昨年12月に秋田市金足

な輝きを放ち、これまでは「緑色凝灰岩」で作られたと考えられてきた。良質の石材が採れる場所が付近に存在すると

アオトラ石は海底の地層に高い圧力が加わって変化した変成岩の一種で、日高地方の額平川流域が国内唯一の産地とされる。比重が大きく、衝撃に強いといった特徴があり、磨くと光沢が出る。青緑や灰色のしま模様が出る。青緑や灰色のしま模様が出る。青緑や灰色のしま模様が出る。青緑や灰色のしま模様が出る。

上捨の石斧は青緑の神秘的な輝きを放ち、これまでは「緑色凝灰岩」で作られたと考えられてきた。良質の石材が採れる場所が付近に存在すると

1965年に農道工事現場で4点見つかり、88年に国の重要文化財に指定された。約6千年前の縄文前期の石斧とみられる。アオトラ石を「擦り切り技法」で刃物のような形状に細長く加工して作られ、表面はきれいに磨かれている。最も大きな石斧は長さ60・2センチ、厚さ4・6センチ、重さ4・4キロで、国内最大級。木を切る道具ではなく、祭祀(さいし)に使われた儀礼用の道具と考えられている。県立博物館所蔵。



発行所 秋田魁新報社
〒010-8601
秋田市山王臨海町1番1号
©秋田魁新報社 2016年

もちほもち屋へ!
奥羽住宅産業の
ビックリホーム
ISO9001認証取得
大曲営業所もご利用下さい
0120-444-877
http://www.o-u.jp/

21元気いっぱい「鬼は外、福は内」
「節分」の日の3日、秋田市大の秋田太陽幼稚園・ベビー園で、例の豆まきが行われた。園児約20人が「鬼は外、福は内」と元気づけ鬼を追い払った。